



裁判による解決では 早期解決に限界がある 基金制度を求め 根絶7陣提訴

2月1日、東京地裁（原告7名）、札幌地裁（同8名）、仙台地裁（同6名）、新潟地裁（同6名）、福井地裁（同16名）、松山地裁（同8名）、熊本地裁（同11名）に全国トンネルじん肺根絶第7陣訴訟を提訴しました（原告合計62名）

私たちは、「謝れ、償え、なくせじん肺」のスローガンの下、これまで全国トンネルじん肺訴訟において、今日まで原告2561名の和解を成立させて、ゼネコンとの間の統一和解基準ルールを設けました。また、国に対して、規制権限不行使の責任を明確にさせる国家賠償請求を求めてトンネルじん肺根絶第1陣訴訟（原告732名）及び同2陣訴訟（原告242名）を提訴し、2006年7月7日、東京地裁において国の責任を認める勝訴判決を獲得しました。その後、熊本、仙台、徳島、松山の各地裁においても全て国の責任を認める勝訴判決を連続して獲得しました。

原告団は、これらの勝訴判決により、2007年6月18日、国との間で合意を成立させ、国にトンネルじん肺防止対策を強化することを約束させました。そして、今日まで「粉じん障害防止規則」の改正（切羽付近での粉じん測定義務化等）、「積算基準」による粉じん作業時間の短縮を実現、トンネル建設労働者の健康・就労情報データベースの創設等のじん肺防止対策を大きく前進させました。この間、和解を見ずに亡くなった原告もいます。裁判による解決では早期解決には限界があり、一日も早くトンネルじん肺基金の創設が求められています。

しかし、ゼネコン業界団体である日本建設業連合会（日建連）は、未だにこのトンネルじん肺基金に強く反対して同救済法成立を拒否しています。そこで、やむなく第7陣の提訴をせざるを得ませんでした。第7陣には東京地裁に愛知から原告1名が加わっています。今後、みなさんの応援をお願いします。詳細は労職新聞等をご覧ください。

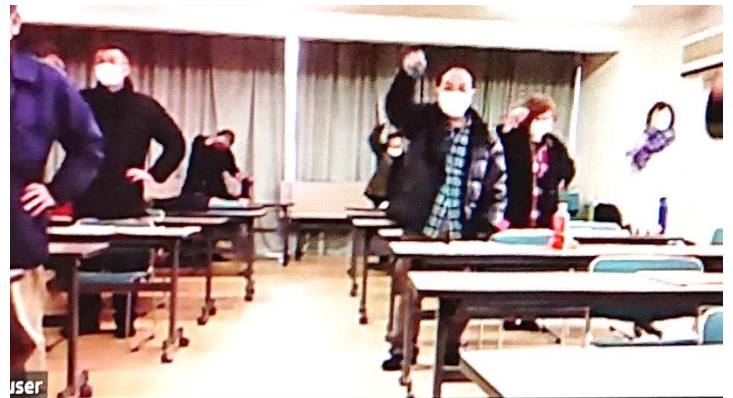
「一人ひとりの命が守られる社会へ」を掲げて 大会から半年 県本部委員会

建交労愛知県本部3階ホールにおいて、2月6日、第31回県本部委員会が開催されました。

昨年は9月に予定していた大会が、コロナ感染拡大により10月に延期され、大会と大会の中間の会議としては、まだ半年までは経っていませんが、春闘などのこともあり例年通りに開催されました。

開会のあいさつから始まり、議長をはじめ諸役員を選出が行われ、議案の提案が行われました。

2021年秋年末闘争の総括、2022年春闘方針（案）及び統一要求基準（案）、会計報告・会計監査報告、改憲阻止等平和活動の取り組みなど、多くの提案がされました。



提案後の質疑応答では、保育パート支部、学童保育支部、東海鉄道本部、名南地域支部、近物レックス名古屋支部、名北合同支部、労職愛知分会など9人からの意見と報告がありました。分会からは松原さんが委員として、トンネルじん肺根絶闘争第7陣提訴について報告をし、愛知から原告1名が参加するため、今後の支援をお願いしました。コロナ感染の影響もあり、会場とリモート参加を合わせて30人の参加でした。委員会が終わると、いよいよ春闘の始まりです。最後はみんな「団結して頑張ろう！」で終了しました。

みんなのひろば

ひな祭りのお菓子

★尾張の『おこしもの』 豊田の『からすみ』



尾張のおこしもの



長崎の桃カステラ

桃の節句が近づいてきましたので、今回は、ひな菓子を取り上げてみました。尾張地方の伝統的なひな菓子といえば、名古屋を中心とした「おこしもの」です。練った米粉を木型からおこして作るためにこの名がついたようです。

しかし、西三河地方岡崎のひな菓子は、「いがまんじゅう」だそうです。餡を新粉餅（米粉で作ったお餅）で包んで餅米を乗せて蒸したシンプルなお饅頭です。シンプルですが、もちもちのお餅にしっとり甘いこし餡がベストマッチ！

同じ三河でも豊田から岐阜県の東濃にかけては、米粉にクルミやよもぎを練り込んで蒸した『からすみ』があります。



← いが饅頭
からすみ →



★長崎の節句には桃カステラ

ちょっと離れた長崎のひな祭りでは桃カステラです。桃を不老不死の果実として、長寿の象徴とする中国の風習が、長崎に根付いていたカステラと融合したと言われています。かつては初節句を迎えた子供へお祝いをくれた方に、お返しする『内祝い』として使われていましたが、いつしか女の子自身の長寿や健康を祝うものになり、ひな祭りに食べられるようになったとされています。

ご案内

※ 第1回分会会議は、コロナ感染拡大状況をみて開催します。

重傷者・死者数は高齢者が圧倒的多数 コロナ オミクロンを甘く見ないで

新型コロナ オミクロン株の感染拡大が収まりません。オミクロン株が出始めた頃は『感染力は強いが重症にはならない』と言われていました。

そして、政府も「2回目ワクチン接種から8か月以上経過すれば3回目接種できるようにする」としていました。しかし、昨年6～7月に接種した人が8か月すると2月になります。1月末にはすでに感染者も重傷者・死者ともに大幅に増加していたため、政府が判断した「8か月以上」ではなく「6か月でなくてはいけなかった」という声が上がりました。

愛知でも多くの感染者が出ている2月始め、高齢でじん肺患者の組合員に、まだ『3回目の接種クーポン』が届いていませんでした。（地域によって違いはあります）2月半ばにやっと届き、接種可能な病院に予約しようとしても、「ワクチンが足りなくて予約に応じられない。国からいつ薬が入ってくるかもわからない」との返事です。

組合員のみなさんは、スムーズに予約ができたでしょうか？また接種できたでしょうか？

医療従事者の感染拡大による一層深刻な人手不足、ワクチン3回目接種の遅れによる高齢者施設でのクラスター発生、入院できず亡くなる高齢者が急増し、守られない命が増え続けています。

医療・介護予算を減らしてきた政治の責任は明らかです。

組合員数 ☆認定組合員数 **24** 人

☆組合員総数 **25** 人

訃報：白砂雪雄さんが2月17日逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

3月の予定

- 1日 3・1 ビキニデー
- 5日 県本部 第241回執行委員会
- 9日 全国労職部会中間会議
- 10日 春闘勝利決起集会
- 19日 9条改憲 NO! 集会

